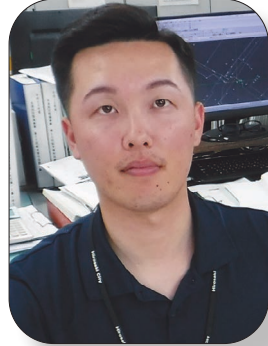


水を守る

日々、安全で安心な水道水を守るために働く3人に話を聞きました。



上下水道部工務課 技師

私たちは、水道管の更新工事の設計、監督業務をしています。工事の目的は主に、古くなった水道管を、長寿命で耐震性に優れた水道管へ取り替え、漏水防止を図ることです。また、災害時に拠点となる施設などへつながる重要な水道管についても耐震性に優れた水道管へ交換し、水道水の安定供給を図ります。安全で安心な水道水を供給できるように、頼りになる係員一同で頑張ります。



写真は、排水のためのバルブ操作作業です。水道管の中で水の流れがないと、水が滞留して水質が悪化してしまいます。排水をして水を動かすことで常に新しい水が流れ、良質な水道水を供給できるようにしています。

上下水道部工務課 技師



「命の水」を作っている使命感を持って、市内60カ所以上で水の検査をしています。

上下水道部 上水道施設課 技師

水の安全について聞きました

①水質検査は毎日しているの？

水道法で定められている水質基準51項目の他に、水質管理上留意すべき項目なども定期的に検査しています。項目により検査する頻度が異なりますが、特に重要な残留塩素と色・濁りは毎日検査しています。

②どんな方法で？

水に含まれる微量な成分（鉄・マンガンなどの金属類、ナトリウムやカルシウムなどのミネラル）を、分析機器で検査しています。味やにおいは人が実際に飲んで検査しています。

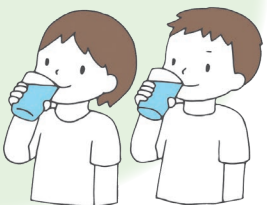
③どんなことに気を付けているの？

消毒の効果を表す「残留塩素」という項目に気を付けています。水道法で定められた濃度を守っていますが、水温が高い時期は水道管内で残留塩素が薄くなりやすいです。しかし、残留塩素の濃度が濃すぎると味やにおいが悪くなる場合もあるため、気温や水温、水の使用量などに注意を払って管理しています。

④市民の皆さんへメッセージを！

数多くの精密機器を使った正確な検査で、水質基準に適合した安全な水であることを確認しているので、安心して水道水を使ってください。

弘前市は良質な水源が多く、水道水の水質は安定しています。水分補給のためにも、暑い日は水道水を冷やして飲むのがオススメです。



市の主な水道施設

弘前市は、大小12カ所の浄水施設で水を作っています。津軽広域水道企業団からの受水、岩木・相馬などの浄水場を合わせると、市全体で1日あたり10万2,884立方メートルの浄水能力があります。現在、市の配水池は20カ所あり、総有効容量は4万7,721.6立方メートルです。

樋の口浄水場

市内最大の浄水場です。浄水処理は薬品沈殿処理・ろ過処理・塩素消毒を行っています。1日に約3立方メートルの水道水を作っています。

常盤坂配水池



約1万2,000立方メートルの水を貯留可能な配水池です。

原ヶ平配水場



約1万2,000立方メートルの水を貯留可能な配水池です。No.1配水池（写真左）は老朽化のため平成27年に新たに築造されました。

富士見台配水場



約1万5,000立方メートルの水を貯留可能な配水池です。黒石市に浄水場がある津軽広域水道企業団より水道水を受水しています。

岩木中央配水場

水源は一本木沢水源の湧き水と井戸水です。岩木地区へ配水しています。

相馬低区配水場・相馬新低区配水場

水源は井戸水です。相馬地区へ配水しています。

大森配水池



水源は小杉沢水源の湧き水です。大森地区・十面沢地区へ配水されます。

一本木沢水源



岩木地区の水源です。水量が豊富なため、水道水だけでなく市の備蓄水にも使用されています。

生まれ変わる！ 樋の口浄水場



▲完成予想図

詳しくは市ホームページをご覧ください。

バナーが目印！



樋の口浄水場は、市上水道の基幹施設として整備されましたが、建設から半世紀が経過し、施設の老朽化や耐震性の面が課題となっています。また、少子高齢化や人口減少、節水型機器の普及などを背景に水需要量は減少傾向を示しています。

このような状況から、市では将来を見据えて樋の口浄水場などの施設規模を見直し、安定的な運転やコスト削減が見込める、設計業務、建設工事、運転管理業務を一括発注するDBO方式を採用し、令和2年3月に契約を締結しました。

新しい浄水場は、従来の塩素消毒に加え、紫外線処理を行うことで、より安全で安心な水道水を供給します。また、岩木川の氾濫時に備えた「浸水対策」や「水質安全対策」、「地震対策」、「停電対策」など防災機能が強化されます。

令和8年4月
供用開始予定